

因果とは何か

——アームストロングの単称因果論を擁護する——

植田拳太

(哲学・思想論分野)

本論文では、「因果とは何か」という問いを、ヒュームが提示した規則性説（＝継起する事象にすぎないものを人間が規則として受け止めたものが因果であるという考え）を批判し、単称主義の因果論（＝人間は規則性を前提としなくても、一回的な事象に因果関係を理解することができる）を提示した D.M.アームストロングの議論を検討し、考察した。第一章「ヒュームの因果論」、第二章「アームストロングの因果論」、第三章「単称因果と法則の例化」、第四章「アームストロングへの反論に答える」という構成で、第一章、二章では、ヒュームとアームストロングの因果論の対立について論じた。第三章では、アームストロングの単称説をさらに詳しく検討し、特に単称因果の内在性について掘り下げて考察した。この結果、アームストロングの主張である、「因果は法則の例化である」とは、単称因果はその本性からして内在的な関係なのであり、法則の例化もまた内在的なものであるとして解釈できることが分かった。最後の第四章では、アームストロングに向けられた二つの批判から、彼の説を擁護することを試みた。二つの批判とは（1）規則性と自然の斉一性についての反論、（2）単称因果の定義からの反論であり、（1）に対しては、アームストロングにおける単称主義の基本的特徴、という点から、（2）に対しては、批判者の問いの立て方に焦点を当てた論駁によって、アームストロングの議論を擁護できると考えた。結論として、アームストロングの主張は、「トークンとしての継起に内在的なものとして特徴づけられる法則の例化が、因果である」とまとめられることを示した。